

課題名	中心静脈カテーテル挿入時の皮膚消毒薬が医療費及び抗菌薬使用量に与える影響の調査
承認番号	C23018A
研究機関名	医療法人社団協友会金沢文庫病院 横浜薬科大学
研究責任者	所属 横浜薬科大学 実務実習センター 氏名 氣賀澤 郁
研究期間	2024年1月～2027年3月
研究の意義・目的	中心静脈カテーテルは、嚥下機能が低下した患者様や術後で消化管が使用できない患者様を対象に、輸液で栄養を補給するために使用されます。その際、合併症として中心静脈カテーテル関連血流感染症（CRBSI）を発症することがあるためその予防策が重要となります。CRBSIは、患者様の健康に与える影響に加え医療費の増加や抗菌薬の使用量増加による耐性菌の発生も懸念され公衆衛生の脅威となり得ます。予防策の1つとして、カテーテル挿入時に従来使用されていたポビドンヨード消毒液（以下 PVI）ではなくクロルヘキシジングルコン酸塩含有アルコール消毒液（以下 CHG）で皮膚消毒を実施することが有効とされていますが、この方法単独が医療費や抗菌薬の使用量に与える影響についてはエビデンスが不足しています。そこで、医療法人社団協友会金沢文庫病院において PVI と CHG を使用していたそれぞれの期間における医療費、抗菌薬使用量を比較することを本研究の目的とします。
研究の方法（対象期間含む）	本研究は後ろ向きの観察研究であるため、患者に対する新たな試料・情報の取得は発生しません。医療法人社団協友会金沢文庫病院において、2018年11月から2023年12月までの間に中心静脈カテーテルを使用した患者様を抽出し、当院に記録されている薬剤の処方記録、各種検査データ、診療行為明細情報をダウンロードして使用します。ダウンロードしたデータより、PVIを使用した期間と CHG を使用した期間とでかかった医療費、抗菌薬の使用量を比較します。
試料・情報の利用目的及び利用方法（匿名加工する場合や他施設へ提供される場合はその方法を含む）	収集したデータは本研究のみに使用します。データの解析に当たっては、個人情報特定されないことがないよう仮名加工化し、共通の電子媒体に入力・保存します。仮名加工化したデータは、元のデータと連結可能とするため対応表を作成し当院にて解析用データとは別に保管します。これらのデータを閲覧できるのは本研究の研究者のみであり、データの入力および訂正は原則、研究責任者及び研究分担者が行います。本研究の対象となられる患者様で調査からの除外を希望される場合は下記問い合わせ先までご連絡ください。また、調査からの除外により当院での診療診察等への影響が出ることはありません。
利用又は提供する試料・情報の項目	臨床情報（患者背景、臨床検査値、処方記録、診療行為明細情報等）

<p>試料・情報を利用する者の範囲</p>	<p>医療法人社団協友会金沢文庫病院に所属する研究担当者および横浜薬科大学に所属する研究担当者</p>
<p>資料・情報の管理における責任者の氏名又は名称（当院及び提供先）</p>	<p>医療法人社団協友会金沢文庫病院 薬剤科 小川 大輔 横浜薬科大学 実務実習センター 氣賀澤 郁</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>横浜薬科大学 実務実習センター 講師 氣賀澤 郁 住所：横浜市戸塚区俣野町 601 TEL: 045-859-1370 医療法人社団協友会金沢文庫病院 薬剤科 係長 小川 大輔 住所：横浜市金沢区釜利谷東 2-6-22 TEL: 045-785-3311</p>